

資料1 「第1回地域懇談会の開催結果について（報告）」

資料2 「地域懇談会で示された意見を踏まえた中間報告の整理について」

資料3 「答申に向けて追加・整理すべき事項について」

審議の視点（確認）

本検討委員会では、地域懇談会等でいただいた様々なご意見を踏まえながら、児童・生徒にとって望ましい教育環境の実現という観点から審議を行います。

審議にあたっては、次の視点を基本とします。

1. 地域からいただいた意見を丁寧に受け止め、その趣旨や背景を整理します。
2. 教育的観点から、小規模校の良さと課題の双方を客観的に整理します。
3. 「子どもたちにとって将来にわたり望ましい教育環境となるか」という視点で検討します。
4. 地域コミュニティや人口・定住施策、防災、施設活用等に関する教育環境以外の事項については、市教育委員会から関係部署へ共有し、市全体として今後の検討の参考とするため、本検討委員会における審議事項外とします。
5. 答申は、統合の可否を決定するものではなく、教育委員会が最終方針を判断するための教育的な考え方を整理するものとします。

第 1 回地域懇談会の開催結果について（報告）

1 開催目的

令和 7 年度に検討委員会が取りまとめた中間報告について、保護者及び地域住民へ説明するとともに、穂坂小学校の今後の教育環境について幅広く意見を伺い、今後の検討委員会での審議及び教育委員会（市）における方針決定の参考とするため開催した。

2 開催概要

項目	内容
開催日時	令和 8 年 7 月 2 5 日（土） 午後 7 時 3 4 分～午後 9 時 2 5 分
会場	韮崎市立穂坂小学校 体育館
対象	穂坂町住民、保護者等
説明者	韮崎市教育委員会
説明内容	令和 7 年度中間報告の概要 ・ 穂坂小学校が対象となった理由 ・ 今後の検討スケジュール等
意見聴取方法	会場での意見交換 意見用紙（当日提出・後日提出）

3 参加状況

・ 参加者 7 9 名（記者除く）

意見書提出状況

・ 当日提出 5 件

・ 後日提出 3 3 件

・ 合計 3 8 件



4 主な説明内容

教育委員会から、令和 7 年度に検討委員会が取りまとめた中間報告について説明を行った。

- ・ 少子化及び児童数推計
- ・ 令和 7 年度中間報告の概要
- ・ 穂坂小学校が対象となった理由
- ・ 複式学級の状況
- ・ 今後の検討の進め方
- ・ 地域懇談会開催の目的

5 地域懇談会及び意見書で示された主な意見 【詳細：別紙のとおり】

地域懇談会では、保護者や地域住民等から、小規模校の教育的価値、複式学級や教員配置、統合以外の方策、通学、地域コミュニティ、人口・地域活性化、学校配置、検討の進め方など、幅広い意見が示された。

また、懇談会当日に時間の都合等により発言できなかった方や、懇談会に参加できなかった方等から意見書の提出を受けた。

全体としては、現在の穂坂小学校の教育環境を肯定的に評価し、学校の存続を望む意見が多く見られた。特に、少人数によるきめ細かな指導、異学年交流、全員が役割を担う学校生活、教員と児童との距離の近さなど、小規模校ならではの教育的価値を評価する意見が繰り返し示された。

一方で、単に「統合反対」とするだけではなく、小規模校の良さを維持しながら教育上の課題を補うための具体的な提案も多く、区域外就学や他校との交流学习・合同授業、ICTの活用、特色ある教育活動の充実、市独自の教員配置など、統合以外の可能性についても検討してほしいとの意見が示された。

また、統合を想定した場合の意見としては、スクールバス、通学時間、乗降場所、安全性等への懸念が示され、特に意見書では、朝の出発時間、学年ごとに異なる下校時間、放課後児童クラブ・子ども教室、保護者による送迎など、統合後の日常生活を具体的に想定した意見が多く、統合する場合には、突然環境を変えるのではなく、「十分な準備期間を設けること」や「統合先との交流活動を事前に実施すること」「児童一人一人を丁寧に引き継ぐこと」「教員や支援員を適切に配置すること」などを求める意見が示された。

教育以外では、学校が地域コミュニティの核であり、防災拠点や地域行事の中心として果たしている役割を重視する意見が非常に多く、「学校がなくなれば地域のつながりが弱くなる」や「子育て世帯の転入が減り、人口減少がさらに進むのではないか」「学校を残すための移住・定住施策を進めてほしい」といった意見が示された。

(1) 教育環境に関する意見

- ①少人数であることにより、児童一人一人に教員の目が届き、きめ細かな指導が行われている。
- ②異学年交流や、全員が学校行事等で役割を担うことなど、小規模校ならではの良さがある。
- ③小規模であることが、直ちに学力面や教育上の不利益につながるとは考えにくい。
 - ・小規模校の課題を示すのであれば、学力、中学校進学後の適応、集団活動等について客観的な根拠を示してほしい。
 - ・市独自の教員配置を継続・拡充することにより、単式学級を維持できないか。
 - ・小規模特認校、区域外就学、ICT交流、合同授業、特色ある教育活動等により学校を存続する方策も検討してほしい。

(2) 通学・児童支援に関する意見

- ・統合した場合、通学距離や通学時間が長くなることが心配である。
- ・スクールバスの運行ルート、乗降場所、乗車時間等を具体的に検討してほしい。
- ・低学年を含めた児童の安全確保と負担軽減に十分配慮してほしい。

- ・学校配置を見直す場合には、十分な準備期間を設けてほしい。
 - ・統合先との合同授業や交流活動を事前に行い、児童の不安を軽減してほしい。
 - ・児童一人一人の状況を丁寧に引き継ぎ、必要な教員・支援体制を確保してほしい。
- (3) 地域コミュニティに関する意見
- ・学校は地域コミュニティの中心的な役割を担っている。
 - ・学校がなくなることによる地域活動や住民同士のつながりへの影響が懸念される。
 - ・学校と地域が長年築いてきた関係や、地域住民・卒業生の学校への思いを大切にしたい。
 - ・地域の将来や活性化も含めて考えてほしい。
- (4) 人口・地域活性化に関する意見
- ・児童数の減少を前提とするだけでなく、人口や児童数を増やす施策を進めてほしい。
 - ・子育て世帯の移住・定住を促進する住宅施策や子育て支援を充実してほしい。
 - ・穂坂地区の自然環境や地域資源を生かした地域活性化を進めてほしい。
 - ・学校の存続と人口減少対策を一体的に検討してほしい。
- (5) 学校配置・財政等に関する意見
- ・穂坂小学校だけでなく、市全体の児童・生徒数の将来推計を踏まえた学校配置を考えてほしい。
 - ・将来的な小中一貫校や学区の見直しなども含めた長期的な学校配置を検討してほしい。
 - ・学校を存続する場合と統合する場合の費用を比較してほしい。
 - ・財政面だけでなく、教育的効果や地域への影響も含めて判断してほしい。
- (6) 検討過程・情報発信に関する意見
- ・中間報告における「統合が望ましい」との方向性について、判断に至った理由を丁寧に説明してほしい。
 - ・中間報告は市としての最終決定ではないことを明確にしてほしい。
 - ・地域の意見を十分に聞き、その意見を今後どのように扱うのか示してほしい。
 - ・検討状況や今後のスケジュールについて継続的に情報提供してほしい。
 - ・在校生、保護者、未就学児保護者、卒業生など、幅広い立場から意見を聞いてほしい。

6 今後の進め方

地域懇談会への参加や意見書の提出は任意であり、学校の今後に強い関心や意見を持つ方が回答しやすい性格もあるが、現在の小規模校の良さを十分に認めたうえで、児童数の減少が続く中で子どもたちにとって望ましい教育条件を安定的に確保するためにはどのような対応が必要かについて、教育環境に関する事項と、それ以外の事項に整理して、それぞれの役割に応じて対応する。

- ・教育に関する事項については、検討委員会において教育的観点から整理し、答申に向けた審議を進める。
- ・地域コミュニティ、人口・定住施策、防災、施設活用等に関する事項については、市教育委員会から関係部署へ共有し、市全体として今後の検討の参考とする。

地域懇談会で示された意見を踏まえた中間報告の整理について

1 趣旨

令和 7 年度に検討委員会が取りまとめた中間報告では、児童・生徒数の推移や学校規模、複式学級、通学条件、児童・保護者アンケート等を踏まえ、穂坂小学校については「早期に統合が望ましい」との方向性が整理されました。

令和 8 年度は、この中間報告を基に審議を継続するとともに、学校運営協議会や地域懇談会等を通じて保護者や地域住民の意見を伺いながら、子どもたちにとって望ましい教育環境について検討を深め、答申に向けた方向性を整理する年度としています。

第 1 回地域懇談会及び意見書では、現在の穂坂小学校における小規模校ならではの教育的価値を評価する意見をはじめ、複式学級、教員配置、統合以外の教育的方策、通学や児童への配慮等について様々な意見が示されました。

本議題では、中間報告を変更するものではなく、中間報告で示した方向性を基に審議を継続する中で、地域から示された「教育に関する意見」について、検討委員会として教育的観点から、子どもたちにとって望ましい教育環境を実現するために必要な教育上の配慮や条件について整理し、答申に向けた審議を深めるものとなります。

なお、地域コミュニティや人口・定住施策、防災、施設活用等に関するご意見については、市教育委員会から関係部署へ共有し、市全体として今後の検討の参考とします。

2 地域意見を踏まえた教育的観点からの整理

(1) 小規模校の教育的価値

【地域から示された主な意見】

- ・少人数であるため、教員が児童一人一人をよく把握し、きめ細かな指導ができていく。
- ・全員が学校生活や行事で役割を担い、責任感や自己肯定感が育っている。
- ・異学年交流など、小規模校ならではの良好な人間関係が形成されている。
- ・現在の教育環境に大きな問題がないのであれば、学校を存続させてもよいのではないか。

【中間報告における整理】

小規模校には、一人一人に目が届きやすいことや、児童相互・教職員との関係が密接になりやすいことなどの良さがある。

一方、一定規模の集団の中で、多様な考え方に触れ、互いに学び合い、切磋琢磨する機会や、集団活動・学校行事等の教育活動を充実させることも、子どもたちの成長にとって重要である。

【検討委員会として整理する視点】

現在の穂坂小学校で実現している小規模校ならではの教育的な良さについては、地域からの意見も踏まえ、十分に評価する必要がある。

一方、適正規模・適正配置の検討にあたっては、現在の教育環境だけでなく、今後さらに児童数が減少することを見据え、将来にわたり、多様な人間関係の形成や集団での学習活動など、子どもたちに必要な教育環境を安定的かつ継続的に確保できるかという観点から判断することが重要である。

このため、小規模校の良さを認めつつも、中間報告で示した適正配置の方向性を基本として、答申に向けた審議を継続する。

（２）複式学級及び教員配置

【地域から示された主な意見】

- ・市独自の教員配置を継続すれば、単式学級を維持できるのではないかな。
- ・必要であれば市費負担教員を増員してほしい。
- ・現在、単式学級で教育できているのであれば、統合する必要はないのではないかな。

【中間報告における整理】

穂坂小学校では、児童数の減少により複式学級の基準に該当する学年が生じており、市独自の教員配置により単式学級として運営している。

今後の児童数の推移を踏まえると、複式学級の解消は見込めず、来年度には複数の複式学級が生じることも想定される。

【検討委員会として整理する視点】

市独自の教員配置は、現在の教育環境を確保するうえで一定の効果を果たしている。

一方、適正規模・適正配置は、現在の教員配置によって複式学級を回避できているかだけではなく、今後の児童数の減少を踏まえて、必要な教員を継続して確保し、安定した学校運営及び教育環境を将来にわたり維持できるかという観点から考える必要がある。

このため、市独自の教員配置のみをもって小規模化への恒久的な対応策とするのではなく、中間報告で示した適正配置の方向性を基本として検討を継続する。

（３）統合以外の教育的方策

【地域から示された主な意見】

- ・小規模特認校制度を導入できないかな。
- ・区域外就学を活用して児童を増やせないかな。
- ・学区を見直してはどうか。
- ・ICT 交流や合同授業によって小規模校の課題を補えるのではないかな。
- ・地域資源を生かした特色ある学校づくりを進めてはどうか。

【中間報告における整理】

穂坂小学校については、市独自の教員配置により複式学級を解消しているものの、今後も複式学級の解消が見込めないことなどから、通学距離や通学時間に配慮しながら、葦崎小学校又は葦崎北東小学校との統合が望ましいとの方向性を示した。

【検討委員会として整理する視点】

地域から提案された小規模特認校制度、区域外就学、学区の見直し、ICTを活用した交流、合同授業、特色ある学校づくり等については、小規模校の教育活動を充実させる取組として、それぞれ一定の意義があるものと考えられる。

一方、中間報告では、今後の児童数の推移や複式学級の見直し等を総合的に勘案し、将来にわたり子どもたちにとって望ましい教育環境を確保する観点から、穂坂小学校について統合が望ましいとの方向性を示している。

このため、地域から提案された取組については、その意見を受け止めつつ、中間報告で示した適正配置の方向性を基本として審議を継続する。

また、ICTを活用した交流や合同授業等については、現在の教育活動の充実に加え、学校配置を見直す場合における児童同士の事前交流や円滑な移行にもつながる取組として整理する。

（４）通学及び児童への教育的配慮

【地域から示された主な意見】

- ・通学距離や通学時間の増加が児童の負担にならないか。
- ・スクールバスの運行方法を具体的に示してほしい。
- ・低学年児童等の安全面に十分配慮してほしい。
- ・統合する場合には十分な準備期間を設けてほしい。
- ・統合先との事前交流を行ってほしい。
- ・児童への心理的支援や教員配置を充実してほしい。

【中間報告における整理】

適正配置の検討にあたっては、通学距離・通学時間だけでなく、児童の発達段階、道路状況、地形等を考慮し、児童及び保護者に過度な負担を生じさせないように配慮する必要がある。

また、穂坂小学校については、通学用バスの手配など、児童が学校生活に支障を来さないよう配慮する必要がある。

【検討委員会として整理する視点】

学校配置を見直す場合には、安全な通学手段を確保することを基本とし、通学距離、通学時間、乗車時間、乗降場所、児童の発達段階等を踏まえて通学支援を具体的に検討する必要がある。その際、穂坂小学校に係る通学手法のみを個別に検討するのではな

く、市内他校における現在の通学方法、通学距離・通学時間、スクールバス等の通学支援、安全対策等についても確認し、市内全体の通学実態を踏まえて検討する必要がある。

これにより、市内の児童間で通学条件や支援に著しい差が生じないように、公平性や一貫性にも配慮した通学手法を整理する。

また、児童の心理的負担を軽減するため、統合先との事前交流、教職員間の十分な引継ぎ、必要な教員・支援員等の配置についても検討する。

これらについては、中間報告で示した適正配置を実現する場合に必要な教育上の条件・配慮事項として、答申に向けて具体化していく。

3 検討委員会としての整理

地域懇談会及び意見書では、現在の穂坂小学校における少人数教育の良さを評価する意見をはじめ、様々な意見が示されました。

検討委員会としては、これらの教育に関する意見を十分に受け止めて審議を継続する必要がある。

一方、中間報告は、現在の教育環境だけでなく、今後の児童数の推移や複式学級の見通し等を踏まえ、将来にわたり子どもたちにとって望ましい教育環境を確保する観点から、穂坂小学校について統合が望ましいとの方向性を示したものである。

このため、地域から示された教育に関する意見を踏まえつつも、中間報告で示した方向性を基本として審議を継続し、通学手法については市内他校の状況も踏まえて検討するとともに、児童への配慮、事前交流等の教育上の条件・施策を具体的に整理し、答申につなげていく。

答申に向けて追加・整理すべき事項について

1 趣旨

令和 7 年度中間報告及び第 1 回地域懇談会等で示された意見を踏まえ、今後、検討委員会として子どもたちにとって望ましい教育環境について答申を取りまとめるため、追加して確認・整理すべき事項について審議します。

中間報告では、穂坂小学校について統合が望ましいとの方向性を示していることから、今後はその方向性を基本としつつ、地域から示された教育に関する意見も踏まえ、学校配置を見直す場合に必要となる教育上の条件及び配慮事項を具体化します。

なお、本検討委員会は統廃合の可否や具体的な統合先を決定するものではなく、教育的観点から子どもたちにとって望ましい教育環境について審議し、教育委員会へ答申するものです。

2 答申に向けて追加・整理すべき事項

(1) 児童数及び学級編制の将来見通し

【整理事項】

- ・穂坂小学校の児童数及び学年別児童数の推計
- ・複式学級が見込まれる時期及び学年
- ・市独自の教員配置の現状及び継続性

【整理の視点】

現在だけでなく将来の児童数を踏まえ、子どもたちに必要な教育環境を継続的かつ安定的に確保できるかを確認する。

(2) 統合候補校における教育環境

【整理事項】

- ・韮崎小学校及び韮崎北東小学校の児童数・学級数
- ・両校の将来児童数推計
- ・施設規模及び受入れ可能性
- ・学級編制への影響
- ・教育活動及び学校生活への影響

【整理の視点】

学校配置を見直す場合に、受入れ先において適切な学校規模及び教育環境を確保できるかを確認する。

(3) 市内各校の通学実態及び穂坂小学校に係る通学手法

【整理事項】

〔市内各校の現状〕

- ・市内小学校における主な通学方法
- ・徒歩、公共交通機関、スクールバス等の利用状況
- ・通学距離及び通学時間の状況
- ・スクールバス等の運行状況

〔穂坂小学校に係る検討〕

- ・穂坂町各地区から統合候補校までの距離
- ・想定される通学時間
- ・スクールバス等による通学支援の必要性
- ・想定される運行方法
- ・運行ルート及び乗降場所
- ・乗車時間
- ・低学年児童等への配慮
- ・放課後の活動等を踏まえた下校方法

【整理の視点】

穂坂小学校に係る通学手法については、穂坂地区の地理的条件や児童の発達段階等を十分考慮するとともに、市内他校における通学実態及び通学支援の状況を比較し、市内全体として公平性・一貫性のある通学条件となるよう検討する。

また、国が示す通学距離・通学時間等を一つの目安としつつ、児童の実際の乗車時間、乗降場所までの移動、登下校時刻、道路の安全性、低学年児童への負担等、児童の日常の学校生活への影響を重視して整理する。

(参考) 国の基準：小学校 4.0 km、1 時間以内

学校名	スクールバス	通学最遠距離・時間	
韮崎小	—	徒歩：一ツ谷	約 1.6 km (30 分)
		上ノ山	約 1.5 km (30 分)
穂坂小	—	徒歩：柳平	約 4.3 km (70 分)
		県営団地	約 2.5 km (40 分)
韮崎北東小	有	バス：重久	約 6.0 km (10 分)
		中條 4 区	約 2.5 km (20 分) 乗降時間最長
韮崎北西小	有	バス：上円井	約 5.2 km (15 分)
		三ツ石	約 4.0 km (20 分) 乗降時間最長
甘利小	—	徒歩：湯舟	約 3.2 km (55 分)
		スカイタウン	約 3.0 km (55 分)

※徒歩時間は、グーグルマップの徒歩時間を 1.3 倍した参考値

(4) 児童の円滑な移行に向けた教育的支援

【整理事項】

- ・ 統合候補校との交流学习
- ・ 合同授業、学校行事等を通じた事前交流
- ・ 児童の心理的不安への対応
- ・ 教職員間の情報共有及び引継ぎ
- ・ 支援を必要とする児童への個別対応
- ・ 必要な教員・支援員等の配置
- ・ 保護者への継続的な情報提供

【整理の視点】

児童が新しい学校環境へ円滑に移行できるよう、学校配置の見直し前から段階的な交流及び支援を実施するための方策を整理する。

(5) 穂坂小学校の教育的な良さ・特色の継承

【整理事項】

- ・ 少人数教育の中で培われてきた教育活動
- ・ 異学年交流
- ・ 地域人材・地域資源を活用した学習
- ・ 地域と連携した教育活動
- ・ 統合候補校へ継承できる取組

【整理の視点】

学校配置を見直す場合においても、穂坂小学校で培われてきた教育的な良さや特色を可能な限り今後の教育活動へつなげる。

(6) 地域から提案された教育的方策の整理

【整理事項】

- ・ ICT を活用した交流、合同授業・交流活動
- ・ 特色ある教育活動
- ・ 小規模特認校制度
- ・ 区域外就学
- ・ 学区の見直し

【整理の視点】

地域から提案された教育的方策について、その教育的効果、実現可能性及び持続可能性を確認する。

なお、これらの方策の検討は、中間報告で示した適正配置の方向性を改めて白紙から検討するものではなく、地域意見に対する検討委員会としての考え方を整理するとともに、今後の教育施策として生かすことのできる取組を検討するものとする。

3 今後の審議の方向性

今回整理した事項について、事務局において必要な資料・情報を追加整理し、次回以降の検討委員会へ提示する。

また、今後の検討委員会では、次の考え方を基本として審議を進める。

- ①中間報告で示した適正配置の方向性を基本として審議を継続する。
- ②地域懇談会等で示された教育に関する意見について、検討委員会としての考え方を整理する。
- ③通学手法については、穂坂小学校の状況だけでなく、市内他校の通学実態及び通学支援の状況を比較・検討し、安全性、児童の負担、公平性等を踏まえて整理する。
- ④児童への配慮、統合候補校との事前交流、教職員間の引継ぎ、必要な教員・支援体制等、学校配置を見直す場合に必要となる教育上の条件・施策を具体化する。
- ⑤穂坂小学校で培われてきた教育的な良さや特色について、今後の教育活動へつなげる方策等を検討する。

これらの審議を積み重ね、子どもたちにとって望ましい教育環境を将来にわたり確保するという観点から、答申に向けた方向性を整理する。

4 今後の審議（予定）

第7回検討委員会（今回）

第1回地域懇談会・意見書の内容を共有

↓

地域意見のうち教育に関する事項について、中間報告を踏まえて検討委員会としての考え方を整理

↓

答申に向けて追加・整理すべき事項を確認

次回以降

追加資料等を確認

↓

市内各校の通学実態と穂坂小学校に係る通学手法を比較・検討

↓

統合候補校の教育環境、児童への配慮、事前交流等を具体化

↓

答申に向けた方向性の整理

↓

学校運営協議会・地域懇談会等での説明・意見聴取

↓

答申（案）の整理

↓

最終答申の取りまとめ